



自衛隊栃木地方協力本部

高根沢自衛隊家族会入間基地研修で航空自衛隊の認識を深める！

～担当広報官・同期と30年ぶりの再会～



入間基地研修の様子



説明の様子



体験喫食メニュー

自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所（所長 高井1陸尉）は、12月2日（月）高根沢町自衛隊家族会（会長 野中 守氏）24名の航空自衛隊入間基地研修を支援した。

栃木県は、陸上自衛隊の駐屯地しかなく、航空自衛隊の印象は、前者に比べてとても薄い環境である。今回の研修は、そんな栃木県民の航空自衛隊に対する認識を深めるために選定された。

入間基地では、中部航空警戒管制団広報の支援を受け、中部航空方面隊司令部支援飛行隊、修武台記念館研修及び隊員食堂での体験喫食等を行った。パイロットによるT-4の説明・体験においては、ブルーインパルスと同じ機体という説明に、参加者の多くが感動を覚えるとともに、パイロットスーツの重さや任務の重要性など、パイロットの大変さを痛感した様であった。また、修武台記念館においては、自衛隊の歴史等を研修し、多くの展示品に興味深く見学する姿もみられた。今回の入間基地研修について、野中会長は、「隊員たちが丁寧に説明してくれる事により、航空自衛隊について理解を深める事ができて、大変よかったです。感謝したい」と話してくれた。引率を担当した広報官が、厚生センターで入隊同期と30年ぶりの再会を果たす微笑ましい出来事もあり、自衛隊がつかない縁に和む一幕もあった。

大田原地域事務所は「今後も、地域と連携し、理解を深めてもらう広報で、募集広報の強化を図っていく。」



30年ぶりの同期と再会を喜ぶ
(右：平井1曹)



集合写真

栃木地本長による防衛講話を実施



本部長講話の様子

自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所（所長 高井1陸尉）は、12月12日（木）、栃木県防衛協会大田原支部（支部長・玉木 茂氏）から依頼を受け、中心街に所在する商業・公共公益複合施設であるトコトコ大田原において栃木地本長防衛講話を実施した。

「我が国の防衛の現状」と題して行われた講話には、大田原支部会員22名が参加した。日頃から、防衛意識の向上を考えている同支部においては、本部長による講話により、日本の防衛について理解を深めることができたほか、更なる連携強化が図られた。また、講話終了後の質疑応答においては、多くの質問が寄せられ、約50分の講話は、盛況に幕を閉じた。

その後の懇親会において、大田原所長が大田原管内の厳しい募集状況を周知するとともに、自衛官募集についてもポスター掲示等の協力をお願いした。大田原地域事務所は、「今後も、各協力団体と連携し、『地域密着型』の広報で募集広報の強化を図っていく」としている。